

中学校選択教科のあり方を求めて

—3年前期「ゴミを追いかける」の実践を通して—

岩田 靖

いよいよ新教育課程の完全実施が目前に迫ってきている。そうした中で、現場での話題の中心は、総合的な学習の時間（以下「総合学習」と称する）の取り扱いをいかに行うかということに終始しているようである。しかし、教育課程の編成という視点から見ると、大きな課題は総合学習以上に選択幅の拡大ということではなかろうか。というのも、各学年の時数が「選択教科」の時数と「総合学習」の時数の合計として示されており、選択教科の時間をいくりに設定し、どのような内容を行っていくかが重要な課題だと考えるのである。さらには、必修教科の時間数が大幅に削減される中で、体験と問題解決を重視する「総合学習」とをどのように結び付けていくかが今、問われているのである。そこで、本稿では「選択教科」のねらいから、社会科における選択教科の取り組みについて実践を通して、考えてみたいと思う。

1. はじめに

(1) 本校の選択教科のとらえ方

選択教科の拡充の趣旨を理解するキーワードをまとめてみると、次のようなものが挙げられよう。

- 一人一人のよさや可能性の伸長
- 個性を生かす教育の充実（個性の伸長）
- 主体的な学習の充実
- 個に応じた指導の工夫・改善
- 学年段階に応じた拡大
- 基礎的・基本的な知識・技能・態度の習得
- 多様化する能力・適性、興味・関心への対応

そして、指導計画の作成においては、①必修教科との関連、②総合学習との関連、③3学年を見通した指導計画への配慮が必要であり、その内容においては、A個に応じた内容、I補充的な学習、U発展的な学習、E負担過重にならない配慮を考えなければならぬのである。

そこで、「選択教科」の時間は、生徒自身の興味・関心に基づき、主体的に取り組み、自分自身の個性や良さを発見し、伸ばす学習の場であり、選択能力の育成を計画的に行わなくてはならないと考えたのである。したがって、能力・適性、興味・関心に応じて、必修教科の授業で学習した内容の補充やそれを発展させた内容などを通して、

A. 基礎的・基本的な知識や技能などを確実に身につけたり、学習の仕方を習得する。

I. 生徒が教科に関わる課題やテーマを選択し問題解決的な追究を行い、自分の個性や適性を発揮する。

以上のことをねらいとし、自分の興味関心に基づき選択した教科において、自分の持ち味を生かし、個性の伸長を図りながら、問題解決力と豊かな表現力を高め、選択能力を身につけることに重点を置くものとしたのである。

(2) 選択教科の果たす役割と配慮事項

必修教科、選択教科、総合的な学習の果たす役割については、次の通りである。

必修教科、選択教科、総合学習の果たす役割

必修教科	基礎的、基本的な知識や技能の定着を図り、[生きる力]を支える学習としてとらえる。総合的な学習において、問題解決の場面で解決のための力となる。 教科における問題解決的な学習は、選択教科での自分の課題を設定する力、問題を発見する力につながる。また、基礎的基本的な学習と選択教科における学習とをつなぐものである。
選択教科	必修教科の基礎的基本的な内容を確実に習得する「補充的な学習」と、必教科に対する興味、関心、思考力や表現力を高めるための「発展的な学習」としてとらえる。 選択教科で扱う問題解決的な学習は、必修教科と総合的な学習をつなぐものになる。
総合	生きていく上で大切にしたい自分なりの価値観を見つけ、自分の個性を発揮して生きる充実

合 学 習	<p>感を味わおうとする「自分らしく生きる生き方」と、他の実感・納得に共感しながら、他の立場や視点に立って考えようとする「他と共に生きる生き方」を学ぶ学習としてとらえる。</p> <p>必修教科，選択教科で学んだことを生かし、体験の中から問題を見つけその問題を解決していこうとする問題解決力や共生の心を育む学習としてとらえる。</p>
-------------	---

また，選択教科を実施する上での配慮事項として，
ア．ガイダンス機能の充実により生徒自身が学習の見通しを持ち，計画を立て，実践への意欲を持つようにすること。

(課題意識の高揚)

イ．自らの手で計画を練り，修正しながら学習を進めていく力を持つ生徒を育てること。

(課題設定能力)(自ら学ぶ力)

ウ．学習の記録を細かに取り，自らの学習の足跡を残させることにより，学習の途中での教師の支援活動や生徒自身による学習の修正，自己評価の活動を促すようにすること。

(評価の充実)

エ．多様な選択教科学習のパターンを生徒にも示すことにより，選択教科学習の可能性を探り，内容の充実を図ること。

(生徒の多様な個性への対応)

を考え，生徒の選択教科の決定にあたっては，できる限り第1希望を優先することやその実施においては，地域の人材や外部指導員，関係諸機関を活用すること，たとえ学習テーマは教師が準備したものであっても，生徒の目の高さによって学習内容や学習方法を工夫・改善しなければならないことを申し合わせた。

(3) 平成13年度の全教科選択と基本的学習の流れ

2年生後期35時間と3年生前期・後期32時間ずつの70時間，合計3回の設定を行った。ただし，その年度の教員配置により，全教科からの講座開設とは行かない場合もある。内容としては，「課題学習」「補充的な学習」「発展的な学習」を基本として，次のようなものを考えている。

ア．生徒自身の自分なりの学習テーマの設定

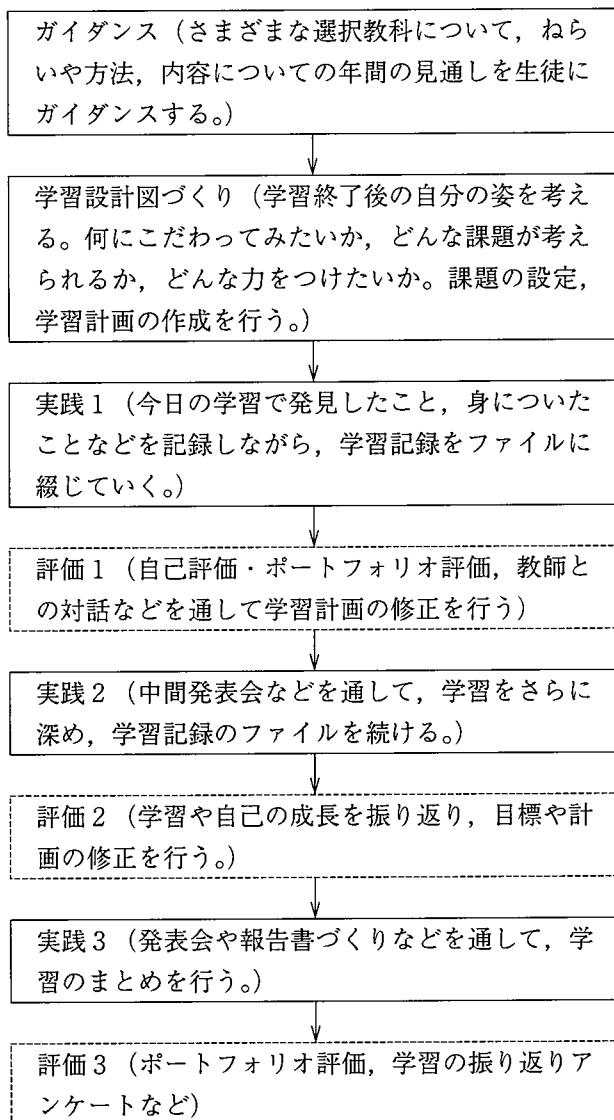
イ．自分にとって必然性のあるテーマの追究

ウ．グループの仲間と追究結果の整理・検討・まとめ・発展

エ．自分なりの新しい学習テーマの設定

こうしたテーマの下，基本的な学習の流れは次の

通りである。



選択教科の基本的な学習の流れ

2. 「選択教科社会」の取り組み

(1) 2年選択学習 (17時間パターン)

① 学習内容とその対象

学習内容については，2年生の後半で実施するという時期的なことや，本校の必修社会科の指導計画との関連から，地理的分野・歴史的分野の内容の深化・発展ということを重点においた。そして学習の対象としては，本校が所在し，島根県の中心都市である「松江」を取りあげることにした。

② この選択学習でねらう力

この選択学習では，地理的分野や歴史的分野の面から，あるいはその両方に関わる面から，「松江」について調査し，その調査を通じて次のような力を付けていきたいと考えている。

- ・自分のこだわりを持った課題を設定し、粘り強く追究することができる。
(粘り強く学び続ける意欲や態度)
- ・松江の地理的事象・歴史的事象に関心を持ち、調査を通じて自分なりの問題を発見することができる。
(社会的事象への関わり・願い、問題発見力)
- ・必要な資料を収集・選択し、それに基づいて多面的・多角的に考え・判断することができる。
(資料活用能力)
- ・自分のこだわりを持って調査したことについて、資料に基づいてわかりやすく発表することができる。
(確かな考えと表現力)

(2) 3年前期選択学習 (35時間パターン)

① 学習内容とその対象

35時間の時数を持つ3年前期の選択学習では、どのような内容を学習してもねらいを達成することは可能であろうが、一応、生徒にとって興味を持って、同時にこれからの地球市民にとって、必要不可欠な知識と体験を提供してくれる環境問題を取り扱うことにした。それも、世界規模の問題から学習するよりも「生活者」の視点を大切にして、身近なところから問題を見つけていけるように、ゴミ問題を学習対象とすることから始めることにした(「ゴミを追いかける」)。

② この選択学習でねらう力

3年選択(課題・発展学習)での基本的なねらいについて、具体的にはこのような目標を掲げた。
○身近で、具体的などころから、地球を取り巻く環

境問題について、考えようとする心情を育む。

- 具体的な問題の背景にある社会問題等を調査・追究する力を高め、何らかの行動を起こそうとする実践力を養う。

(3) 3年後期選択学習 (8時間パターン)

① 学習内容とその対象

3年後期の選択学習は、5教科については、8時間×4ローテーションで行うことになっており、その時数を考えると補充的な学習を計画することにした。ただ、教師が知識を与える学習では、選択学習の主旨に合わず、生徒自身が自ら選択して、得意なことでも・苦手なことでも学習に挑戦し、やり遂げていく実感を大切にしようと考えたのである。

そのために、地理的分野でも歴史的分野でもその1場面を自分なりに資料を中心にまとめてそれを基に、友だちに説明したり、最後には、まとめたものが一冊のガイドブック(資料集・用語集)的に手元に残るようにと構想した。

② この選択学習でねらう力

「地域・時代マップを作ろう」における目標は、以下のように考えた。

- 自分の学びたい時代や地域を選び、特徴的・代表的なことを調べることができる。
- 選んだ時代や地域を分かりやすくまとめ友だちに説明することができる。

(4) 選択教科社会の力

3年間の選択教科社会で育てたい力を次のように考え、3年間を通して、その力を計画的に育てていこうと考えたのである(実際には、2・3年生で開設)。

選択教科で育てたい力

年	補 充 的 な 学 習	課 題 ・ 発 展 的 な 学 習
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の得意なことや苦手なことに気づく力 ・自分のあり方や問題に気づく力 ・自分の課題を調べる力 ・自分や友達のよさを見つける力 ・必要な資料を見つけ、それを読み取る力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の得意なものややりたいことを選択する力 ・自分のあり方や社会との関わりに気づく力 ・自分の課題を多角的・多面的に調べる力 ・友達や他とのかかわりの中で、いろいろな考え方や生き方を見つける力 ・いろいろな資料を関連づけて読み取る力
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の取り組む課題を選択する力 ・社会と自分との関わりや自分の願いに気づく力 ・調査の仕方を身につけ、必要な知識や情報を獲得する力 ・友達や他とのかかわりの中で、いろいろな考え方や生き方を認めようとする力 ・自分の考えを資料に基づいて、まとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の個性が発揮できる課題を選択し、自分なりの取り組みを考える力 ・社会の問題や自分の願いに気づく力 ・進んで調査を行い、問題の解決に向けて取り組もうとする力 ・いろいろな考え方や生き方を認める中で、自分自身を見つめよとする力

		<ul style="list-style-type: none"> ・多角的・多面的に資料を検討し、自分の考えを相手に伝える力
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を高めるための課題を選択し、その取り組み方を考える力 ・自分自身の課題や社会の問題を考える力 ・問題の解決への取り組みを探り、自分なりの解決策を選択・決定する力 ・友達や他の人々と関わり、自分自身を見つめ直すとする力 ・自分の考えを相手が納得できるように、説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己実現が図れる課題を選択し、自分なりの取り組みを作り出し、他へ伝える力 ・自分自身の課題や社会の問題を考え、解決しようとする力 ・いろいろな立場の意見を尊重する中で、自分なりの解決策を選択・決定する力 ・友達や他の人々と進んで関わり、自分の考えや生き方を一層確かなものにしようとする力 ・相手の意見を生かし、自分の意見をより一層高次のものに高め、地域社会に提案する力

3. 実践と考察

選択教科社会の具体的実践として、今年度の3年前期に5名の生徒と行った「ゴミを追いかける」を紹介

しながら、その取り組みを振り返ってみたい。そのねらいは、2(2)②に紹介した通りであり、学習の流れは、1(3)で示した基本的流れにしたがって、次のように計画した。

3年前期選択教科社会「ゴミを追いかける」学習計画

月	題 材	テ ー マ	学 習 内 容	時数	評 価	備 考		
4	全体ガイダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・選択学習の意義・ねらい ・選択学習の進め方と選択教科の希望決定 	1	<ul style="list-style-type: none"> ○選択学習へのやる気を持って、やりたいことが決定できたか。 ○ゴミ問題を通して、意欲的に資料収集やまとめを行い、環境問題に積極的に関わることができたか。また、自らの取り組みを振り返り自己の成長を確かめることができたか。 ○必要な資料の収集が出来そこから問題点が指摘できたか。 ○自分の方法で学習の成果をまとめ、人々に発信ができたか。 ○ゴミ問題を通して、環境問題とその解決に向けての努力を理解することが出来たか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や理科・家庭科との連携 ・インタビューやまとめ発信の力など国語との関わり ・共に生きる(Bridge IIIとの関わり) ・発表能力(Information総合との関わり) 		
5	1. ゴミの現状を知ろう	○ゴミ処理場を見学したり、行政担当者の話を聞こう	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の確認 ・ゴミ処理場等の見学 ・行政担当者への質問 ・見学や訪問結果の整理 	6				
		○自分の関心のあるテーマを追究しよう(調査活動Ⅰ)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題設定と学習計画づくり ・自己のテーマの追究 ・調査した結果の整理とまとめ 	8				
6	2. 自己課題の追究と振り返り	○中間発表会Ⅰと計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会Ⅰ ・計画の見直しと自己評価 	2				
		○調査を深めよう(調査活動Ⅱ)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査を深める ・調査を広める 	5				
7		○中間発表会Ⅱと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会Ⅱ ・計画の見直しと自己評価 ・夏休みの計画 	2				
夏 休 み 中 の 自 己 調 査								
9	3. 学習のまとめと発信	○2学期の計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の計画等の確認・まとめと発信の仕方を考える 	2				
10		○学習の成果をまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の自分なりの発信方法でまとめる 	4				
		○成果を発表・発信しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会 ・評価を通して、自己の成長を振り返る 	2				

この学習を振り返る視点として、①課題意識の高揚、②課題設定能力の育成、③評価の充実、④多様な個性への対応の4つの視点から見ていくことにするが、これらの4つは、互いに深く関係しあいながらそれぞれ高め合っているものと考えてる。

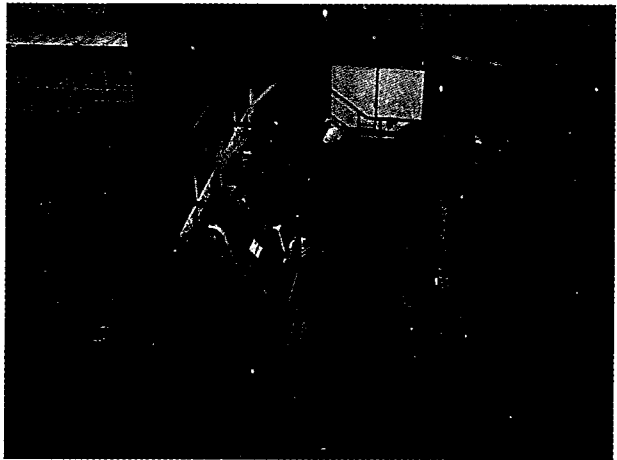
(1) 課題意識の高揚

生徒のゴミ問題に対する認識は低く、その現状すらよく分かっていないということが、事前の生徒との対話の中で明らかになってきた。そこで、この学習をスタートするにあたって、ゴミの現状をしっかりと把握させることと、個々の調査学習を進めるにあたっての情報交換の場の設定を意識的に設けることにした。

① ゴミ問題の現状認識を育てる場の設定

学習のスタートに当たり、わが国のゴミの現状を伝えるビデオを視聴したり、松江市のゴミ処理場（可燃物処理場・不燃物処理場・リサイクルプラザ）の見学や市の環境センターへの訪問調査（担当者の方の話聞く）を計画した。

6時間を使って、ゴミ問題の現状把握と自分の中



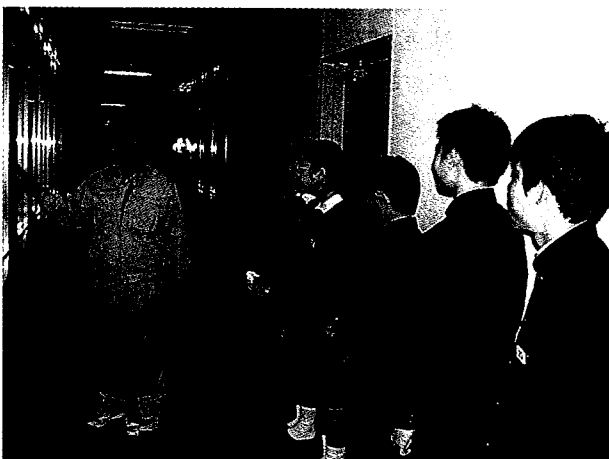
リサイクルプラザ



松江市清掃課への訪問



松江市不燃物処理場



可燃物消却場北工場

での問題づくりを行った。生徒の感想は、「ゴミの行方について、何も知らない自分に気づきました」「市民の意識の問題を強く感じました」「いろいろな施設や法律があることを知りました」など初めての体験に驚いたり、問題への気づきが生まれたようである。

② 情報交換の場の設定

全体での学習を終えると、個人調査を進めることにした。そのため、絶えず情報交換ができるように配慮するとともに、最終発表会に至るまでに中間発表会や評価会などをできるだけ実施し、意欲の継続を図った。また、友だちのよい面を積極的に取り入れようとする姿勢が徐々に見られるようになってきた。こんな、友だちのよさを見つけていた。

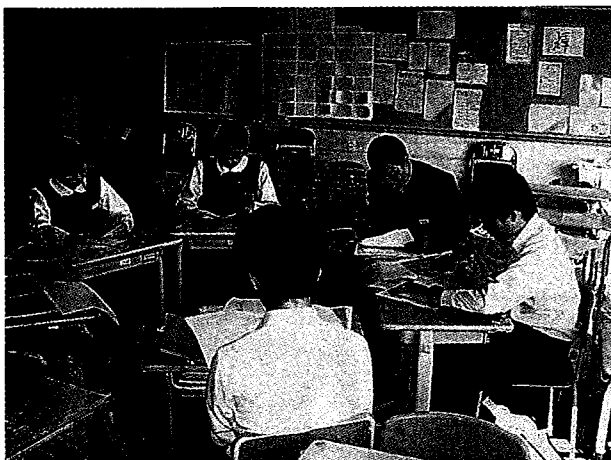
<Fに対して>

○後になればなるほど、どんどんゴミに対する意識が高まっていったことが、活動などを見て感じられた。

○資料収集がとても上手にできた。計画等もですが、行動力がすごいと感じました。

<Rに対して>

- PC室によく通い、真面目に取り組んでいた。自分の興味のあることや調べたいことを熱心にやっていた。
- 自分のテーマを持って、計画的に行動していた。よい質問も多く、色々なことを理解した上で、考えていることに感心させられた。



中間発表会のようす

<Jに対して>

- まとめのプリントを読むと、1つ1つの活動にこんな思いを寄せていたことが分かった。
- ユニークな視点からゴミ問題を追究していたように思います。自分の個性を生かしながら、この取り組みも頑張れたのではないだろうか。

<Sに対して>

- 臨機応変に調査対象や視点を変えたり、その柔軟性に驚かされた。その反面、記録はとても丁寧で、参考になりました。
- あまり目立たなかったけれど、確実にこなしていました。

<Hに対して>

- 本当に熱心に取り組んでいた。色々なことに興味があるようで、感心させられた。
- いつも深いところまでとことん追究して行って、すごいと思いました。

今回は、講座の人数が5名ということもあり、簡単に情報交換ができた反面、多くの人の前で自分の意見を述べるができなかったことが残念に思っている。お世話になった方々や学年・学校の人みんなに情報発信する場を設けていくことも必要だったように感じている。こうした、場を励みに課題意識もより高まり、内容も充実したものになっていくものと考えている。

(2) 課題設定能力の育成

課題設定能力をいかに高めて行くのか、それを確かなものにしていくためにはどうしていったらよいのであろうか。それは、学習の見通しをしっかりと持たせていくかが重要な鍵になっていると感じている。基礎的な知識や現状認識の上に立って、生徒一人一人が自分なりに追究し始めたのが、次のようなことであった。

- F：市内の商店への調査→新聞記事やインターネット調査→ゴミ処理業者への調査→リサイクルへの取り組みについての調査（インターネット）
- R：市内の商店への調査→公民館やショッピングセンターでのリサイクル調査→大型店での調査→海外の取り組み調査（インターネット）
- J：市内の商店への調査→市環境センターでの調査→リサイクル業者への電話調査→各地の取り組みを調査（インターネット）
- S：市内の商店への調査→市環境センターでの粗大ゴミ調査→市民の意識調査をショッピングセンターで→ゴミの減量化についての調査（インターネット）
- H：市内の商店への調査→各組合への電話調査→ゴミ処理業者への調査→世界のゴミ処理についての調査（インターネット）

各々が、自分の課題意識に基づいて多方面からのアプローチを試みた。本時の記録・反省とともに次回の計画をワークシートとして毎回提出させながら、活動の把握とともに助言を行った。個人差はあるもののゴミ問題の複雑さやその解決の必要性について意識できるようになり、自分なりの課題設定やそれに対する活動計画が立てられるようになってきたのである。

こうした、個々の対応がスムーズに行うことができた背景には、ワークシートの活用とともに、生徒と教師との対話の時間の設定にあると思われる。あらたまった対話とともに、活動を見守りながら交わすアドバイスがけっこう重要だったように思われる。

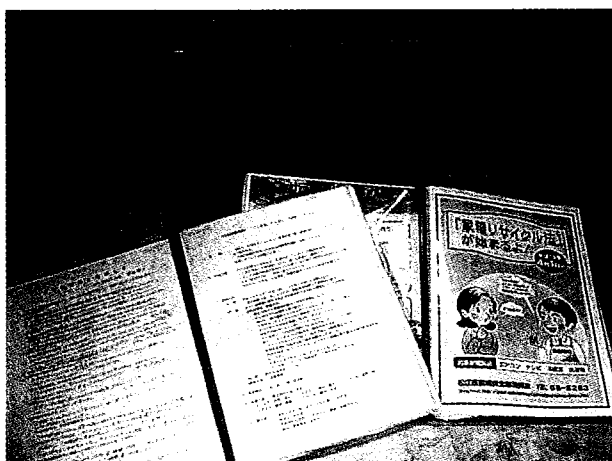
(3) 評価の充実

① ポートフォリオによる自己評価の徹底

これまでの評価は、教師によって得た知識を評価することが多かったように思われる。しかし、これからの選択教科の学習においては、学習（活動）や自己の成長の過程をいかに評価していくかが問われているのである。そう考えた時、自分の学習をしっかりと記録に残すとともに、自己の学習や成長を振り

返り、それを蓄積していくことが何より大切になってくるのではなからうか。そのためにも、この学習に対する自分の願いや成長した自分の姿をいかに明らかにするのか、そして、それを評価する基準をいかにはっきりさせていくかが必要だと考える。また、こうした記録を整理したり、振り返りを行う時間の設定が求められているといえよう。

下の写真は、生徒が持っているポートフォリオのためのファイルである。100円ショップで購入した20ポケットと40ポケットのクリアーファイルに授業で配布したプリント類（教師とのやりとりに利用）と自分が収集した資料等を入れるように工夫したのである。



ポートフォリオファイル

生徒が掲げためざす（なりたい）自分の姿や身に付けたい力は、次のようなものであった。

- ・思ったこと、知りたいこと、やりたいことを行動にうつせる。
- ・疑問を持って、考えながら解決していく。
- ・自分の考えや意見を表現できる。
- ・調査する力やまとめる力
- ・積極的に質問できる姿
- ・自信を持って発表できる姿
- ・計画実行がしっかりとできる
- ・ゴミの減量化への提言と行動
- ・自分で計画し行動できる力
- ・自分の考えを他にアピールする力

こうした願いや姿を自分で評価しながら、成長をとらえていったのである。こうした振り返りを行うための時間を4回程度確保し、自分自身や教師とその取り組みや成長を話し合ったのである。今まで、あまりこうした取り組みの経験がなく、初めのうちはどうしていったらよいのかわからないで戸惑って

いた生徒もしだいに慣れ、積極的に自分の成長を見つけようとしたり、成長を感じられるようになってきたようである。ただ、こうした取り組みは、3年生からではなく、1年生から順次育てていく必要があることを強く感じた。ポートフォリオ評価については、現在、総合学習の評価として注目され実践されているものの、個の活動に対応する意味からも、実は選択教科の評価に適しているように考えるようになったのである。生徒にとっても自分の学習を綴っていくことや振り返ることは、とても励みになるようで感想の中にいくつも述べられていた。

② 相互評価や教師との対話の活用

自己評価能力を高めていく上では、独りよがりのまま終わるのではなく、評価基準をしっかりとさせていく必要がある。そのためにも、他の人の取り組みや評価を参考にしたり、教師との対話の場を多くしていくことが必要不可欠であろう。発表会の場だけではなく、ポートフォリオの整理の時間を利用しての互いの情報交換も意義深いものがある。



ポートフォリオ整理と相互評価

(4) 多様な個性への対応

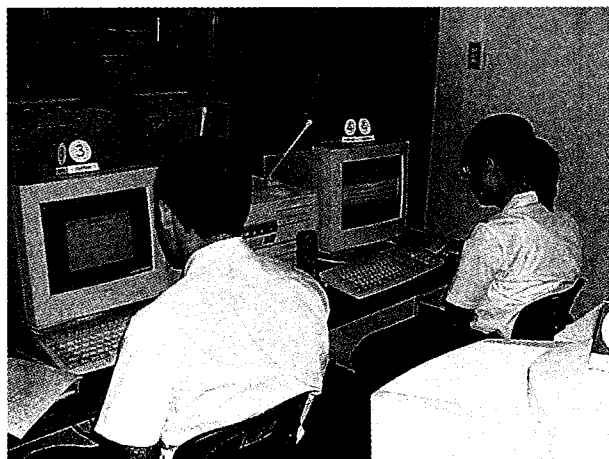
選択教科の大きなねらいでもあるのが、生徒の主體的な取り組みへの支援のあり方であり、多様な個性への対応である。今までに述べてきたことすべてが、まさにこの課題に対する答えのように考えている。この課題に答えて行くには、いかに選択肢を多く生徒に提供できるかということに尽きるのではないだろうか。課題の決定から始まって、調査のあれこれやまとめ方、発表等の仕方についてもより多くの選択肢の中から、生徒が主体的に自己決定し、挑戦する姿が見られるように努めていきたいものである。

生徒にとって、自由度が高いということはかえっ

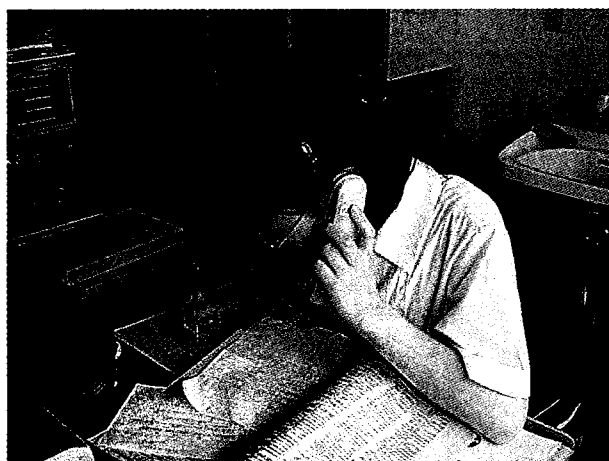
て苦しいことも多く、責任が問われることになるのである。一人の生徒は最後の感想に、「この学習計画表を見てみるとすごいことをやってきたなと思います。先生は、当たり前と言っておられるけど、僕にとってはすごいことだと思います。始まる前は、先生がいろいろ準備してくれてそれをやるだけだと思っていたけど、自分で計画を立てて、自分でアポイントを取らないといけないのでたいへんでした。けど、この学習でかなり成長があったし、とても有意義な学習だったと思います。ゴミの知識だけでなく、他のいろいろなことについても知ることができました。」に象徴されているといえよう。生徒たちは、単なる知識だけではない確かな成長を感じ取っているのである。

4. おわりに

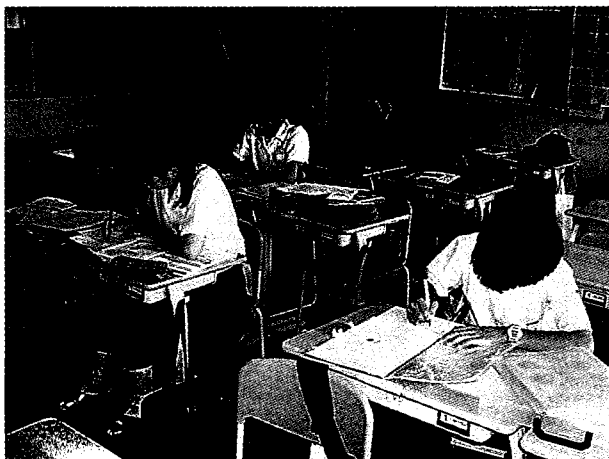
選択幅の拡大に伴って、これからの選択教科のあり方を考えてきたわけであるが、この取り組みに対する生徒の感想や自己への成長を振り返ってみるこ



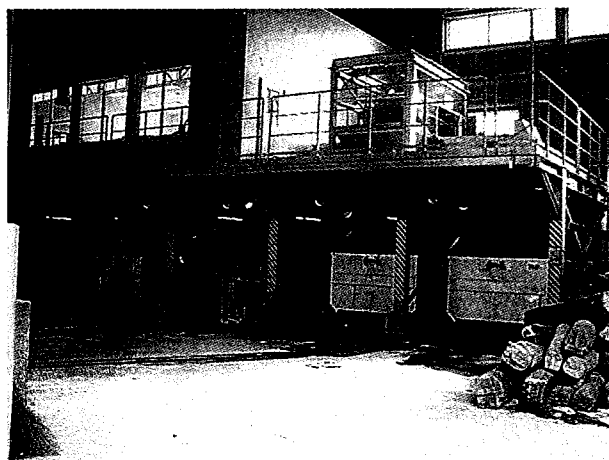
PCでの調査・まとめ



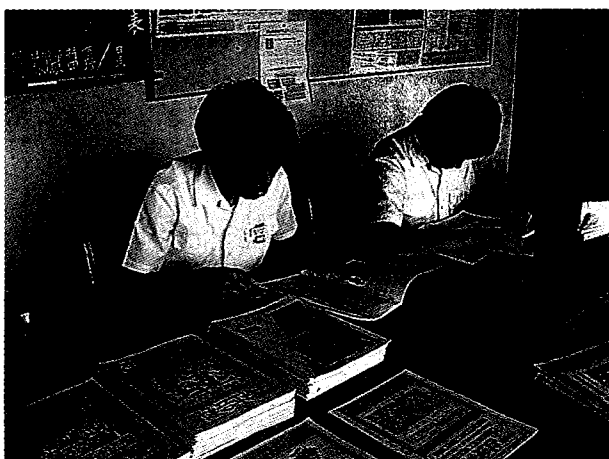
電話での調査・予約



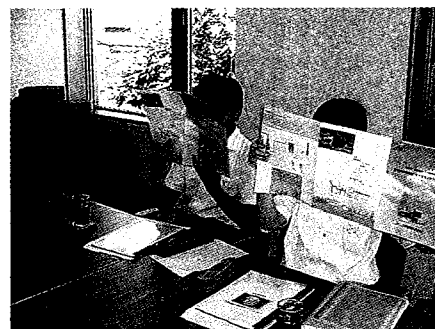
調査の整理・まとめ

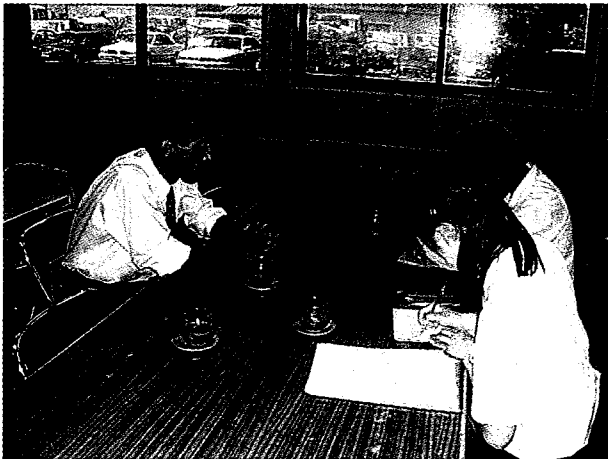


ゴミ処理業者
への調査1



新聞での調査





ゴミ処理業者への調査2

とでまとめにかえることにする。

生活をしていて様々なことが変わっていったような気がします。ゴミやリサイクルのことに詳しくなったのはもちろんですが、いろいろなことにためらうことがなくなりました。例えば社会の祭の調査でも情報を得るために観光協会に電話でインタビューをしました。今までの自分ならこんなことはできなかったのに、平気でするようになっていました。また、今までならすぐにあきらめてしまうところが、1つのことをどんどん追究しようとするようになりました。学習が始まってからは、とことんやらなければ気が済まなくなっていました。(R)

人に感謝したり、発表をして他人に聞いてもらえる喜びを知りました。自分が調査したことが他のメンバーにきちんと伝えることができよかったです。レポートには苦戦したものの、数多くの成長が感じられ、疲れたけれどもよかったです。(J)

はじめの頃は、まだ自分一人で何をすればいいのか考えることもできなくて、調査計画も具体的なことを書くことができなかったけれど、やっていくうちに一人で計画を立てたり、電話をしたりすることができるようになりました。また、発表のための資料整理やインターネットでの調査も頑張れ、発表にも自信ができました (F)

プリントを整理しながら、マナー・要点をまとめる力・インタビューの力・問題を発見する力など前よりも全然よくなっていると感じました。要点もしっかりまとめることができるようになったし、プリントを書く量も増えてきました。でも、一番成長したのは、人の話を聞いたり、電話をしたり、訪問をすることができるようになったことです。それに、前よりも疑問を持つことが多くなったように思います。前の税金の話の聞いたときも、以前なら無関心に話を聞いていたのが、そのことに興味を持てるようになりました。何も知らず、意識したこともなかったゴミについても買い物の際には袋を持参したり、ゴミの分別も自分でできるようになりました。(S)

「ごみ問題」に興味はあっても、全くその現状を知らないというのが始まりでした。ごみについて調べたり、様々なところに訪問したりして、知ったことはたくさんありました。最後には、それを7枚のプリントにまとめることもできました。初めの頃は、知っていなくてもそれが「当たり前」でした。けれど、一つ新しいことを知るたびに、自分の中で意見や疑問を持つことができました。活動全体としては、不十分どころかちっともうまくいかなかったこともしばしばでしたが、考えてみればこれまでこんなにたくさんのことを学んだ気がする活動はしたことがありません。以前の自分に比べて、本当に行動するために必要なことや自分の意見を持つということが分かるようになったと思います社会を選んでよかったです。(H)

選択教科社会の取り組みは、今年度は32時間での実施であり、来年度から35時間に時数が増え、もう少し広い視野からの追究も可能となってくるものと考えている。また、最後には何らかの行動へと結び付けて行きたいと思う。この3年前期の選択ばかりではなく、3年後期、2年後期と「発展的な学習」だけでなく、「補充的な学習」や「課題学習」「体験的な学習」など多様な選択学習を段階的に確かな力を育成しながら進めていくことがこれからの大きな課題といえよう。

【参考文献】

・鳥根大学教育学部附属中学校 (2001) 「[生きる力]

を育む学校づくり～新教育課程と必修教科・選択教科・総合的な学習の実践～』『第41回中学校教育研究発表協議会要項』

- ・ 児島邦宏・佐野金吾編著（1999）『改訂中学校学習指導要領の展開総則編』東京，明治図書
- ・ 澁澤文隆・佐伯真人・大杉昭英編著（2000）『改訂中学校学習指導要領の展開社会科編』東京，明治図書
- ・ 佐伯真人・大杉昭英・澁澤文隆（2000）『新中学校教育課程講座＜社会＞』東京，ぎょうせい
- ・ 田中博之（2000），『総合的な学習で育てる実践スキル30』東京：明治図書
- ・ 堀内一男（1999），『21C 中学校新教育課程のコンセプト解説 5 選択教科の新展開』東京：明治図書
- ・ 澁澤文隆・佐野金吾編（1998）『総合学習・選択学習の展開』東京，教育出版
- ・ 水越敏行・木原俊行編著（1998），『中学校・選択と総合的な学習の新展開』東京：明治図書
- ・ 藤井千春（1997）『問題解決学習で「生きる力」を育てる』東京，明治図書
- ・ 北俊夫（1997）『「社会科の授業」はどう変わらなければならなか』東京，明治図書
- ・ 今谷順重編（1996）『新しい問題解決学習と社会科の授業設計』東京，明治図書
- ・ 澁澤文隆編（1996）『中学校社会科課題学習・選択学習の事例集』東京，明治図書
- ・ 寺西和子（2001），『総合的な学習の開拓25総合的な学習の評価』東京：明治図書
- ・ 『総合学習 5 特集：ポートフォリオ評価』（2001）東京：黎明書房

（いわたやすし・社会科）

E-mail アドレス：iwataya@edu.shimane-u.ac.jp